



## 東大、8月に「骨再生診療科」開設

### 歯槽骨萎縮 臨床研究の患者募集

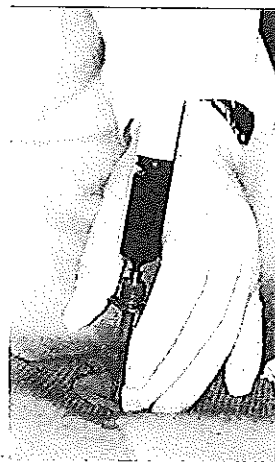
東京大学医科学研究所は、骨の再生医療を対象にした「骨再生診療科」を同附属病院に8月、開設する。歯を失ったあと、土台の骨（歯槽骨）が萎縮した患者に、自身の骨髄由来細胞で歯槽骨を再生する。5月から臨床研究の患者を募集し、安全性を評価した上で、年内にも高度医療につなげる方針。

これまで歯を失うと、入れ歯のほか、最近では咀嚼力が高いインプラント（人工歯根）治療を希望する患者が増えてきた。ただ、インプラント治療は、歯槽骨に穴を開けてインプラントを埋め込むため、歯槽骨が萎縮

した患者には、自身の骨の移植や人工の骨補填剤で歯槽骨再生をしなければならなかった。

「骨再生診療科」では、患者の骨を取ることなく、骨髄から注射器で採取した細胞で骨再生を行うため、患者の身体的負担が軽減される。具体的には、骨髄液から接着性の多分化能力をもつ骨髄間質細胞を採取・培養し、骨を形成する骨芽細胞へ分化誘導させるという。

担当の各務秀明・先端医療研究センター特任准教授は「高齢化が進むなか、インプラントのための骨再生が必要な患者は国内で10万人以上と考えられる。



注射器で骨髄液を採取している様子

そのため、まずは骨移植が必要とされる重度の歯槽骨萎縮症患者を対象に、臨床研究を進めていく」という。

骨再生の費用は、臨床研究で

は無償。高度医療として治療を行う場合は、全額患者負担となる。金額は決まっていないが、インプラント治療（1本30万円～）と同額規模で検討している。

同研究所と同附属病院では、2004年から09年まで歯槽骨再生臨床研究を実施。その安全性と有効性が示されたため、厚生労働省承認のもと、骨再生診療科の開設となった。

今後、骨再生技術としては、治癒まで手術を繰り返す難治性骨折や、骨関節疾患などにも展開されることが期待されるという。

骨再生診療科の運営は、共同研究先で再生医療のTESホールディングス（東京都文京区）の資金サポートを受けて行う。